

# 港湾振興便り



2012. 11

第67号

\*:

## 目 次

\*:

1 ポートエッセイ - 「市民が支えるまちづくり開港5都市会議が新潟で」 -  
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

## 2 トピック

- 国土交通省 清掃 兼油回収船(浮遊ゴミ回収船) 「白龍」について  
(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)
  
- 「ほうふ 秋のお魚まつり」が開催されました  
(中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所)
  
- 「第13回北東アジア港湾局長会議・シンポジウム」が北海道で開催されました。  
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
  
- 平成23年度～北海道地区～「港湾空港特別講演会」開催！  
(北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課)
  
- 「北海道国際輸送プラットフォーム」HOP1サービス開始  
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

## 3 お知らせ

\*:

# 1 ポートエッセイ - 「市民が支えるまちづくり開港5都市会議が新潟で」 -

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

\*:

幕末の安政5カ国条約で日本は鎖国を解き、英米をはじめロシア、オランダ、ドイツに港を開くことを決めた。いまから154年前のことだ。そのとき開港の地に選ばれたのが函館、横浜、新潟、神戸、長崎の5港だった。

開港の歴史を共有する5都市の市民が集まる「開港5都市景観まちづくり会議」が、毎年5都市持ち回りの大会を開いてもう20年近くなる。行政関係者も交じってはいるが、基本的には5都市で景観やまちづくりに関心を持って活動している市民団体が集い、各地での取り組みや課題を報告し合う市民主体の会議だ。

今年、「新潟の『らしさ』を求めて」をテーマに10月下旬、新潟市で開催され、200人以上が集まった。全体会議では、開港当時に新潟に着任した英国領事の本国報告を克明に追い、明治初期の新潟の様子をあぶり出した青柳正俊・新潟県立歴史博物館副館長が「開港場・新潟からの報告—イギリス外交官が伝えたこと」と題して基調講演した。

翌日の分科会では「米が奏でる景観を探る」、「湊町新潟と花街の文化を訪ねて」、「水と土の共生から生まれた暮らしと文化」の切り口から、まち歩きなどを楽しみながら新潟の課題と可能性を探ってくれた。

新潟大会を運営した市民団体は商店街振興組合をはじめ、「新潟あきんど塾」や「新潟水辺の会」、「新潟学の会」「萬代橋ファン倶楽部」「歴史都市新潟研究会」「ユニバーサルカラープランナー協会」など多彩だ。日本一のチューリップを使って大きな絵にする「花絵プロジェクト実行委員会」や、新潟の冬をイルミネーションで彩る「光のページェント」、郷土玩具に光を当てた「鯛車復活プロジェクト」の団体など、名前を聞いただけでは何をしている市民団体か、よく分からないグループもいる。

4都市からも多様な団体がやってきてくれた。各地で開港都市に誇りを持ち、その歴史をこれからのまちづくりに活かそうとの想いの強さを感じられた。

「港に関する会議は男性ばかりだ」との声がよく聞かれるが、今回の会議は女性の姿が目立った。港湾の話を行政マンや男の世界にとどめず、景観やまちづくりへと視点を広げて、市民を巻き込んでいく必要性と可能性を感じさせてくれた大会だった。

\*:

## 2 トピック

\*:

●国土交通省 清掃兼油回収船(浮遊ゴミ回収船)「白龍」の出動  
(中部地方整備局名古屋港湾事務所)

台風17号による雨の影響により、木曾三川などから流出したゴミ・流木等が伊勢湾内に大量に漂流していることから、海上交通路の安全確保、湾内の海洋環境の保全を図るため、国土交通省中部地方整備局では、名古屋港湾事務所所属の清掃兼油回収船「白龍」をゴミなどの漂流現場に出動させ、回収作業を実施しました。同船による回収作業は、10月1日～3日の3日間行いました。

なお、「白龍」は、航行船舶の安全性の確保や海洋環境保全のため、伊勢湾及び三河湾の一般海域(港湾区域、漁港区域を除いた海域、約1,800km<sup>2</sup>)の浮遊ゴミ回収と、大量油流出事故の際の油回収を目的とする船です。通常は清掃船として浮遊ゴミ回収に従事しています。

○ホームページURL

<http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/NAGOYA/topics/121003/121003.pdf>



▲【多関節クレーンによる流木回収】



▲【回収コンテナに収容した流木類】

## ●「ほうふ 秋のお魚まつり」が開催されました

(中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所)

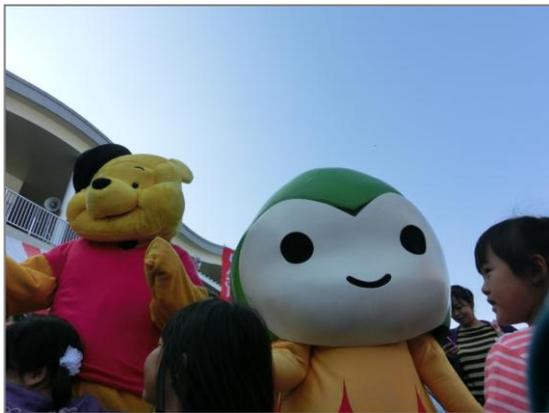
平成24年10月27日(土)、28日(日)の2日間にわたり、みなとオアシス三田尻を中心に、「ほうふ 秋のお魚まつり」が開催されました。

このイベントは、みなとオアシス三田尻の仮登録を機に、みなとオアシス三田尻周辺一帯の販  
わい創出を図ることを目的とし、また瀬戸内の魚消費拡大を図り、生産・販売の関係団体が一緒  
になり、地域住民へ魚食普及と啓蒙を行なうものです。

今回のお魚祭りでは、「鮮魚・活魚・加工品即売」をはじめ、「ペンギンとお散歩&記念撮影会」、  
更には、山口県PR本部長「ちよるる」も来訪、老若男女が楽しめるイベントが目白押しで、家族連  
れ等多くの方で賑わいました。

なお、みなとオアシス三田尻では、今回のお魚まつりだけではなく、毎月第2日曜日に「旬魚ま  
つり」、毎月第3日曜日には「市場まつり」を開催しております。

お近くにお越しの際は、是非みなとオアシス三田尻へお立ち寄り下さい。



▲【山口県PR本部長「ちよるる」】



▲【鮮魚・活魚即売】

## ●「第13回北東アジア港湾局長会議・シンポジウム」が北海道で開催されました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

平成24年10月8日(月)～10月9日(火)の間、日中韓の港湾関係者が集う「北東アジア港湾局  
長会議」と「北東アジア港湾シンポジウム」が初めて北海道で開催されました。

北東アジア港湾局長会議・シンポジウムは、日中韓の三カ国持ち回りで年1回開催されており、  
今回で13回目、日本開催は2009年以来、3年ぶりの開催となります。

10月8日に小樽で開催された北東アジア港湾局長会議では、各国の代表から三カ国の港湾行  
政に関する報告があり、活発な意見交換が行われました。

また、これまで3年間にわたり各国の専門家が参画する「共同研究WG」にて取り組んできた  
「持続可能な発展のための港湾グリーン戦略」、「北東アジア地域における地球温暖化を考慮し

た沿岸防災策」について取りまとめが行われるとともに、その成果については、今後、APEC等の国際会議において情報提供を行うことで合意しました。

10月9日に札幌市で開催された北東アジア港湾シンポジウムでは、「港湾における地球温暖化対策」及び「港湾開発・利用と地域振興」をテーマに三カ国の研究者から発表がありました。

日本からは、北海道工業大学の白石教授より「日本の港湾における風力発電の動向」、城西国際大学の神田教授より「今後の地域振興を支える地方港湾ネットワークのあり方」と題した発表を行いました。

また、小樽市長の中松義治氏より「北海道と北東アジア地域との国際クルーズの振興に向けて」と題した特別講演がありました。

当日は、日中韓の官民の港湾関係者、約250名の参加があり、発表者と参加者による熱心な質疑がなれました。



▲【第13回北東アジア港湾局長会議】

(左から韓国釜山港建設事務所長、日本山縣港湾局長、中国智水運局副局)



▲【第13回北東アジア港湾シンポジウム】

## ●『港湾空港技術特別講演会in札幌 2012開催』

(北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課)

平成24年10月24日、「港湾空港技術特別講演会in札幌2012」を札幌第1合同庁舎講堂で開催しました。

昨年からは地元の(独)寒地土木研究所を交え、国土技術政策総合研究所、(独)港湾空港技術研究所、北海道開発局の共催で毎年1回開催しています。

今年は、国総研、港空研から、「港湾における設計地震動」、「津波に対する粘り強い構造」、「海洋環境下コンクリートの劣化指標」、「流出油の漂流予測」、「空港土木施設の維持管理」について、寒地土研からは「オホーツク海における流氷と波浪の関わり」に関して講演をいただきました。

当日は、建設会社、コンサルタント会社、港湾管理者、開発局職員など約150名の参加があり、質疑では、流水期における油の漂流予測、耐津波設計、地震動評価など多数の質問が寄せられ、防災に関する関心の高さが窺えました。

来年以降も本講演会を通じて技術力向上を図っていくとともに、世界最高水準の研究レベルを誇る国総研、港空研、地元に着した寒地土研の研究成果を活かして、北海道の港湾・空港・漁港の効果的、効率的な整備を進めていきたいと考えています。

## ●「北海道国際輸送プラットフォーム」HOP1サービス開始

～北海道産品の輸出拡大・物流活性化を目指して～

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

北海道産の食料品等の輸出促進にあたっては、その生産体等から大ロット化が難しく、一方、冷蔵・冷凍貨物の小口輸送を安価に輸送する商社・輸送機能が不足しているため、東京経由での集約が必要となる等、物流費のコスト高が課題となっていました。

「国際物流を通じた道産品輸出促進研究会」(事務局:北海道開発局)では、北海道産品の輸出拡大・物流活性化に向けた冷蔵・冷凍貨物の小口貨物輸送サービス、商取引、マーケティング等の課題を解決し、北海道産品を直接かつ安定的に輸出できる仕組みである「北海道国際輸送プラットフォーム」の構築に向けて取り組んでいます。

取り組みの一環として、本年9月より「サンプル輸送」「HOP1サービス※」を開始しています。両サービスの輸送・通関業務は、公募により選定されたヤマトグループが担います。「サンプル輸送」は、新規に輸出を検討する事業者を対象としており、海外の販路開拓を支援するため、30品目の食材サンプルを、香港の150社の飲食店経営者等に送付し、サンプルの評価アンケートや商談取り次ぎを行います。

「HOP1サービス」は、海外と商談がまとまっている事業者を対象としており、香港の納入先まで北海道のどこからでも段ボール1箱あたり輸送費9,000円で小口冷蔵・冷凍輸送を行い、代金回収、通関手続き代行等を行います。

※HOP1サービス:Hokkaido export Platform 1st stageの略称

・北海道港湾輸送プラットフォーム

[http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z\\_kowan/platform/index.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kowan/platform/index.html)

